

## 仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

H21. 9. 2

仁淀川地域本部

## 1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

## (1) 総評

- ・全35項目について、実行支援チームを編成し、支援及び進捗管理を実施。
- ・全体としては、実施計画どおり進捗し事業計画が固まったものは順次補助金を申請、実施に移っている。
- ・No.19「土佐和紙の販売促進」は、手すき和紙職人等で構成されるグループが立ち上がり、産業振興アドバイザーを活用し新たな販路開拓等の研究を始める動きが出ている。
- ・No.22「売れる商品づくりによる地産外商の推進」は、商品づくりのための資源の洗い出しを新たに行うことになり、産業振興アドバイザーを活用し地元産素材を使った商品開発への動きが出ている。
- ・No.26～35の各市町村の観光の事業は、「土佐・龍馬であい博」もにらんで、それぞれの市町村が取り組むのではなく、仁淀川地域として連携して取り組んでいくため、仁淀川流域交流会議や地域資源活用共有会議内に設置予定の観光部会場で具体的に検討していくこととしており、今後、連携された取組の広がりが期待できる。
- ・No.2「土佐文旦の加工」、No.25「企業進出による雇用の増と地元企業の活性化」のアクションプランにおいて、企業が実施主体となる事業への取組が出てきた。下半期に県総合補助金を活用した事業の実施を予定している。

## (2) 補助金及びアドバイザーの導入状況

地域アクションプランの項目名	補助金	アドバイザー
2 土佐文旦の加工	総・国(予)	
4 集落営農の推進	県	
6 本川キジの販路確保と新たな商品開発	総	
8 仁淀川流域茶のブランド化を主体とした茶の振興	総	
10 力強い高糖度トマト産地の確立	総	
18 うるめのブランド化	総	他
19 「土佐和紙」の販売促進		ア
21 (株)フードプランの地域商社化への取組	総	
22 売れる商品づくりによる地産外商の推進		ア
24 JRバス越知駅跡地を活用した中心市街地の活性化	総	
25 企業進出による雇用の増と地元企業の活性化	総(予)	
29 「グリーンパークほどの」の多面的活用	総	
35 国宝と体験型観光による交流人口の増と地域の活性化		ア(予)

※ 補助金 : (総) 県総合補助金、(地) 県地域づくり補助金、(県) その他県単補助金等、

(国) 国庫補助金等、(セ) 産振センター補助金等

アドバイザー : (ア) 産業振興アドバイザー、(工) 工技センターアドバイザー、(他) その他アドバイザー

## 2 地域アクションプランへの追加・修正（予定）項目等

### (1) 21年度の修正項目（案）

- ・No.2 土佐文旦の加工

事業主体に「県内酒造会社」及び「土佐文旦加工組合」を追加、指標に「リキュールの開発と販売開始」を追加

- ・No.25 企業進出による雇用の増と地元企業の活性化

事業主体に「食品会社」を追加

### (2) 21年度の追加項目（案）

なし

※ 現時点では、追加項目とするまでには至っていないが、企業等から地域産品（生姜、高糖度トマト、マッシュルーム等）の活用に係る設備投資の相談があり対応中。

### (3) 21年度・22年度の追加に向けての検討項目

なし

## 3 今後の重点的な取り組み

- ・地域アクションプランの推進については、産業振興アドバイザーの積極的な活用も図りながら、実行支援チームを中心に、引き続き、支援、進捗管理を行う。
- ・特に、県総合補助金を導入するプランについては、事業実施スケジュールに沿った円滑な事業実施となるよう支援を行う。
- ・また、住民の産業振興計画への理解を高めるため、引き続き、各種団体の会合を通じて、地域アクションプランの取組の紹介を行う。
- ・なお、観光分野においては広域観光を推進するため、総合的な情報提供や、体験学習のメニュー化などに取り組む仁淀川流域の共通のプラットフォームづくりに向け、行政機関が連携する仁淀川流域交流会議、商工会等民間団体が連携する地域資源活用共有会議（観光部会）で、計画づくりなど具体的な検討を進める。
- ・また、地域を超えた連携として、牧野博士ゆかりの町村（日高村・佐川町・越知町）や地域内の市町村が、3年後の牧野博士生誕150周年に合わせ県立牧野植物園と連携して、公園づくりや博士の顕彰、展示などを行なえるように調整を進める。